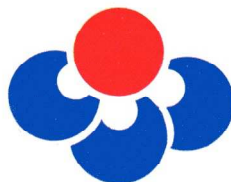


# 中期経営計画

## 第Ⅲ期 (平成29年度～平成31年度)

平成29年3月



社会福祉法人ふじの実会

法人本部

指定障害者支援施設 ふじの実学園

指定障害者支援施設 第二ふじの実学園

障害福祉サービス事業所ワークジョイふじの実

障害福祉サービス事業所ワークジョイかわさき

グループホームふじの花

地域活動支援センターうまっこひろば

## 目 次

I	中期経営計画の策定にあたって	1
II	法人の経営理念	2
III	計画の柱	2
IV	計画の構成	2
V	計画の推進	3
1	本部計画	4
(1)	執行体制計画	4
(2)	施設整備計画	4
(3)	職員配置計画	4
(4)	職員給与の適正化	7
(5)	中期資金見通し	8
(6)	重点項目と基本施策	8
2	施設計画	13
(1)	指定障害者支援施設ふじの実学園	13
(2)	指定障害者支援施設第二ふじの実学園	16
(3)	障害福祉サービス事業所ワークジョイふじの実	19
(4)	障害福祉サービス事業所ワークジョイかわさき	22
(5)	グループホームふじの花	25
(6)	地域活動支援センターうまっこひろば	28

# I 中期経営計画の策定にあたって

## 1 計画策定の趣旨

当法人では、平成 22 年度に第 I 期計画(平成 22 年度～平成 25 年度)を、平成 26 年度に第 II 期計画(平成 26 年度～平成 28 年度)を策定し、事業運営に取り組んできました。

中期経営計画は、法人を取り巻く経営環境がめまぐるしく変化する中、法人が安定した経営基盤を確立し、恒常的に良質で安全かつ安心なサービスを提供していくことを目的に策定したものであり、当面の課題を整理し、その解決に向け、組織的に取り組んだことは、大いに意義のあることでありました。

平成 29 年度は改正社会福祉法施行年であり、経営組織の見直し、事業運営の透明性の向上等法の定めによる整備を進めて参りました。当法人は、今回の法律改正を前向きにとらえ、「より一層、利用者、関係者、市民の負託に応える組織となり、我々の存在意義を示していく」「社会の動脈として人びとの絆を結ぶ役割を率先して担う」「法人経営に対し今まで以上に襟を正していく」こととしております。

平成 28 年度は、第 II 期計画の最終年度にあたることから、これまでの取り組みの成果を総括し、継続して取り組むべき課題を整理すると共に、新たな課題を明確にし、次期中期経営計画(以下「第 III 期計画」という。)を策定していくこととします。

また、第 III 期計画については、第 II 期計画の趣旨を継承しつつ、その内容を十分に精査し、より実効性の高い計画に見直していくこととします。

## 2 計画の位置づけ

経営計画は、経営理念の実現に向けた具体的目標とそれを達成するための具体的行動計画です。したがって計画を作ること自体が目的でなく、行動計画を着実に実践し、目標を達成することが重要となります。そのためには、単年度の重点活動方針及び事業計画、最終的には、人事考課制度における一人一人の目標管理に至るまで具体化していくことが必要です。

## 3 計画期間

第 III 期計画の計画期間は、平成 29 年度から平成 31 年度までの 3 年間とします。

社会福祉法の改正と今後予定されている、第 7 期介護保険事業計画(平成 30 年)、第 4 期障害福祉計画(平成 30 年)、第 7 期医療計画(平成 31 年)の審議結果によっては、大きな制度内容の変更が想定される状況であり、制度の落ち着き先が見えない状況にあります。

このため、地域のニーズ、制度改正の内容を十分に分析し、計画策定後も柔軟な見直しを行っていくこととします。

## 4 策定方針

### (1) 透明性の確保

中期経営計画は、法人全体の向こう 3 年間の事業運営の方向性を決めるものであり、法人全体のコンセンサスを得ることが重要である。計画策定にあたっては、職員からの提言を求め、その内容を各施設において検討したところであります。

### (2) 納得性の確保

中期経営計画は、最終的に目標管理制度につながるものであり、計画を実践していくことになる職員に、計画策定の趣旨や計画の内容が十分に理解されていなければ、成果を上げることができない。そのため、多くの職員の意見や提言を積極的に取り上げるこ

とで納得性を確保していきます。

### (3) 実効性の確保

中期経営計画は、作ること自体が目的ではなく、計画に掲げた課題を解決し、成果を上げることが重要です。したがって、課題解決に向けた取り組みは、実現性の高いものであるとともに、その達成度を測ることができなければなりません。そのため、課題解決に向けた取り組みに沿った目標指数と各年度の目標値を設定し、毎年度、その達成状況を評価することで実効性を確保してこととします。

## II 法人の経営理念

本法人の経営理念は、平成 16 年に法人の目指すべき方向性を明確にするために制定したものです。

本法人の定款に定める目的「多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する」を果たすことが、本法人の使命です。

本法人は、「地域に根ざし、地域に開かれた施設運営」を基本に、人と人とのつながりを大切にし、真に福祉を実現するため地域との交流の深まりの中で「生命の尊さ」「勤労の喜び」「感謝の気持ち」がわかり、「いつでも、どこでも、誰からも愛される」施設づくりを目指し、利用者のライフワークに応じた様々な支援ができるよう努めるものであります。

### 社会福祉法人ふじの実会経営理念

一人ひとりの個性と人権を尊重し、安全で安心して暮らせる施設と地域づくりをめざした「自立」を支援します

1. 健康で充実した生活ができるように支援する
1. 利用者の思いと願いを良く理解し、日常生活を支援する
1. 地域生活に向けた自立生活支援をする
1. 家族、行政、企業、関係団体と連携し社会自立を支援する
1. 全ての職員が、倫理、理念を尊重し、専門性を高め、地域社会の一員として社会福祉の充実をめざす

平成16年9月14日制定

## III 計画の柱

第Ⅲ期計画の柱は、運営の基本方針を「サービス」「人材」「経営」という3つのキーワードで整理し、向こう3年間の事業運営の指針として組織に浸透するよう、「親しみやすさ」と「覚えやすさ」に配慮し、次のとおりとしました。

- 1 利用者の満足、家族の安心、地域の信頼を得る福祉サービスの提供
- 2 人を育て、人を活かし、人を大切にする職場環境の確立
- 3 透明性、安定性、効率性を追求した経営マネジメントの実践

## IV 計画の構成

第Ⅲ期計画の構成を次のとおりとしました。

### 1 本部計画

#### (1) 執行体制計画

- (2) 施設整備計画
- (3) 職員配置計画
- (4) 職員給与の適正化
- (5) 中期資金見通し
- (6) 重点事項と基本施策

## 2 施設計画

本法人の運営する各施設について、「目指すべき施設像」「課題解決に向けた取り組み」「固定資産物品購入計画」「修繕計画」の4項目について計画を策定します。

# V 計画の推進

## 1 行動計画の策定

各年度の重点活動方針において、本部計画で定めた「重点項目と基本施策」の具体的取り組みを示します。また、各年度の施設事業計画では、施設計画で定めた取り組み方針に基づき、目標(目標指数及び目標値)達成のための具体的行動計画を策定します。

## 2 行動計画の実行

行動計画の実行にあたっては、まず、「どんな課題に、何のために、どのように」取り組むか、繰り返し職員に説明し、組織目標を浸透させることが重要です。このため、組織(グループ、係等)や担当職員が、主体的に取り組めるよう適切な役割分担を行います。

## 3 計画の進捗管理

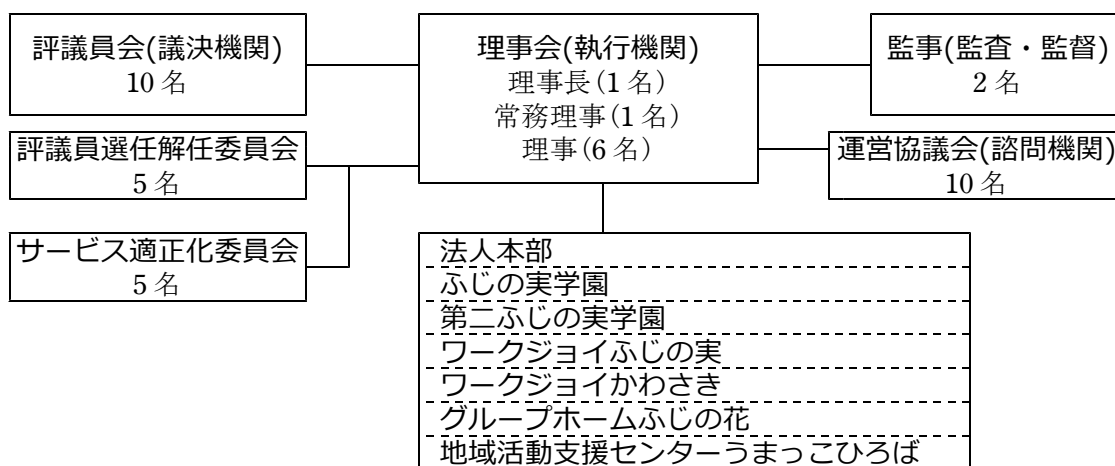
中心的な役割を担う職員に計画の実施状況をマネジメントさせ、施設長等は適宜、報告・連絡・相談を受け、適切なフォローを行います。また、人事考課制度の中間面接を活用するなどし、必ず計画の進捗状況を確認する。なお、状況変化が生じた場合や効果が得られない場合は、行動計画の修正を行うことも必要です。

## 4 計画の評価

各年度の達成状況の評価は、人事考課制度における施設長の期末面接において、1次評価を実施し、その後、各年度の事業報告書において、最終評価を実施します。

## 5 計画の推進体制

計画の推進体制は下記のとおりです。



## 1 執行体制計画

社会福祉法の改正により、「評議員会」は諮問機関から「議決機関」に、「理事会」は議決機関から「執行機関」へと経営組織の在り方が見直しされたところであり、これらの体制整備により一層円滑な法人経営を進めます。

## 2 施設整備計画

### (1) 基本的な考え方

- ① 質の高いサービスの提供と効率的な経営を両立させるため、改築・新築方針の検討にあたっては、ソフト・ハードの両面から検討を進めます。
- ② 地域に根ざし、地域に開かれた施設運営を行うため、圏域の整備計画や地域の福祉ニーズ等を把握し、改築・新築の事業規模等を決定します。

### (2) 施設整備計画の概要

施設名	整備計画の概要	見込額(千円)	計画年度
ふじの実学園	施設本体屋根修繕	73,000	H30-H31 実施
第二ふじの実学園	トイレ及び洗面所改修	22,700	H29-H30 実施
グループホームふじの花	グループホーム新築	44,400	H28-H29 新築工事

## 3 職員配置計画

### (1) 基本的な考え方

#### ① 計画の趣旨

ア サービスの質の向上と支援の充実を図るため、適切な職員配置を目指します。

特に、利用者の高齢化に対応するため、医療スタッフの複数配置により、医療ケアの充実を図ります。

イ 働きやすい職場環境を目指し、職員個々の負担軽減を図ることを目指します。

ウ 利用者が安全に暮らし、職員が安心して働ける施設を目指し、サービス提供体制の充実を図るため、安全衛生推進者の配置等、適切な支援体制、勤務体制等に見直します。

#### ② 計画推進にあたって

ア 施設の増改築に伴う職員増については、職員確保を安定的に進めるとともに、職員育成を計画的に行うため、増改築前年度から実施します。

イ 利用者の重度化・高齢化等への対応のため、計画的に職員を増員配置していきます。

ウ 職員構成と定年退職、普通退職等の自然減を考慮しながら、新規採用を含め段階的に進めていきます。

エ 施設整備計画の変更、制度改正等収支や積立金の状況変化を勘案しながら、計画を推進していきます。

(2) 各施設の職員配置計画

施設名	H28	H29	H30	H31
法人本部	6	5	5	5
ふじの実学園	25	27	28	30
第二ふじの実学園	35	36	39	40
ワークジョイふじの実	16	15	15	15
ワークジョイかわさき	11	10	11	11
グループホームふじの花	18	19	20	20
地域活動支援センターうまっこひろば	4	5	5	5
計	115	117	123	126

(H28は3/1現在数値)

(3) 職員数の増減と人件費の増減

① 職員数の増減予定

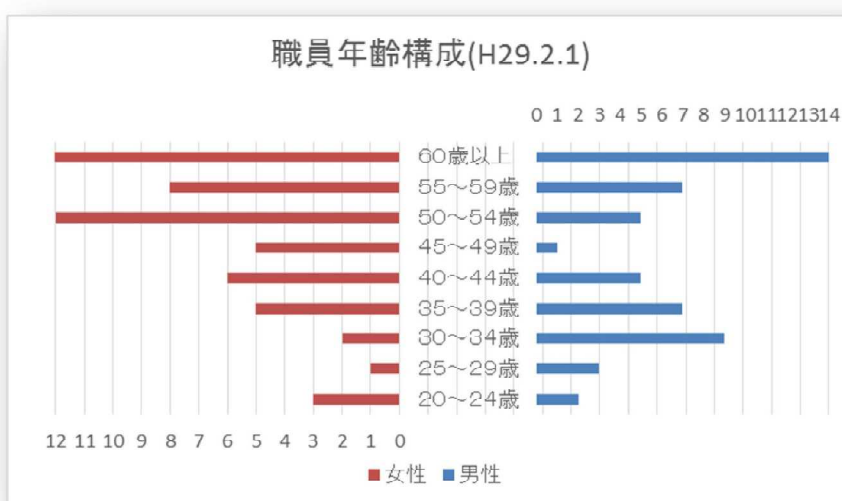
	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
正規職員	61	53.0	65	55.6	68	55.3	70	55.6
常勤嘱託職員	9	7.8	9	7.7	10	8.1	11	8.7
常勤臨時職員	14	12.2	13	11.1	15	12.2	15	11.9
非常勤職員	31	27.0	30	25.6	30	24.4	30	23.8
計	115	100.0	117	100.0	123	100.0	126	100.0

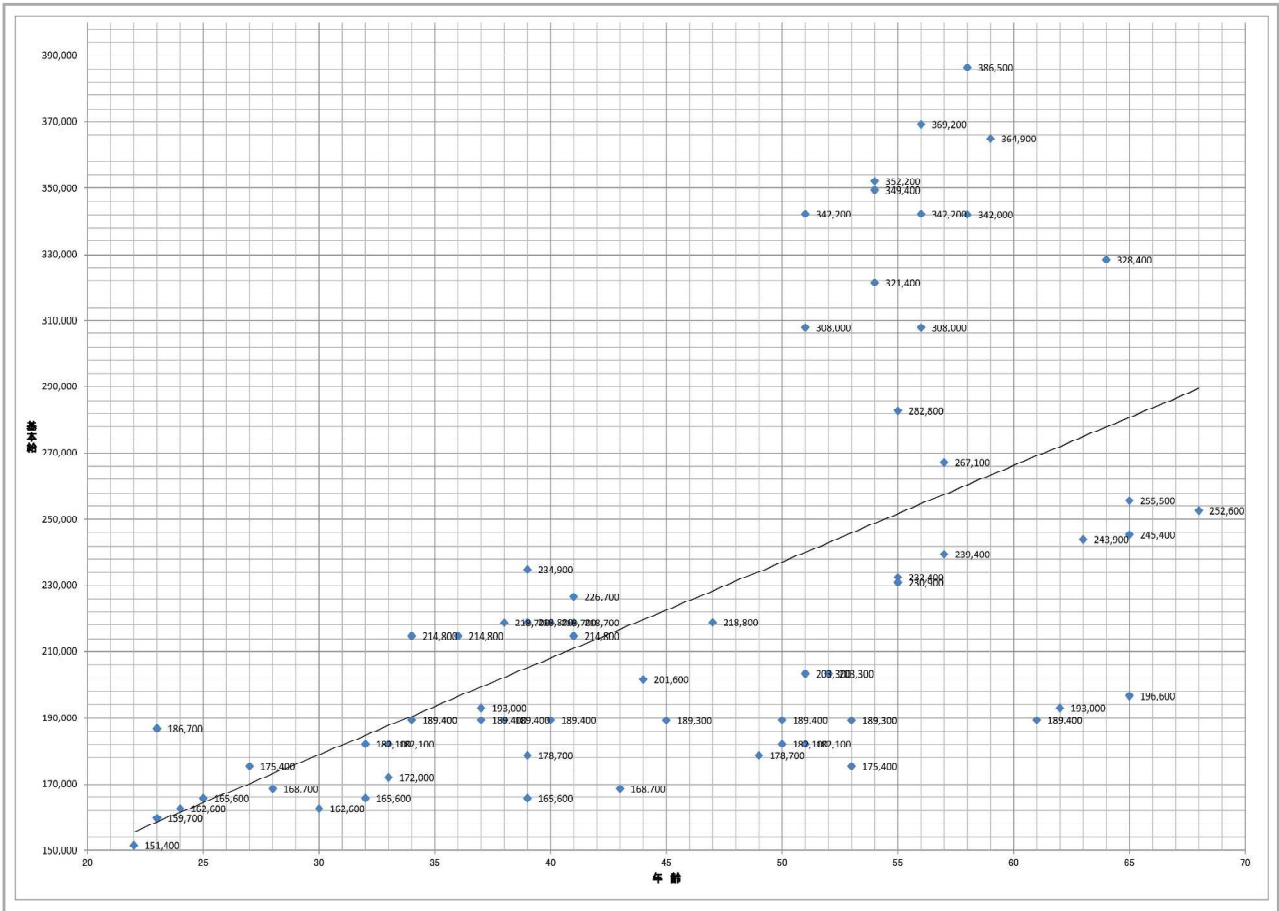
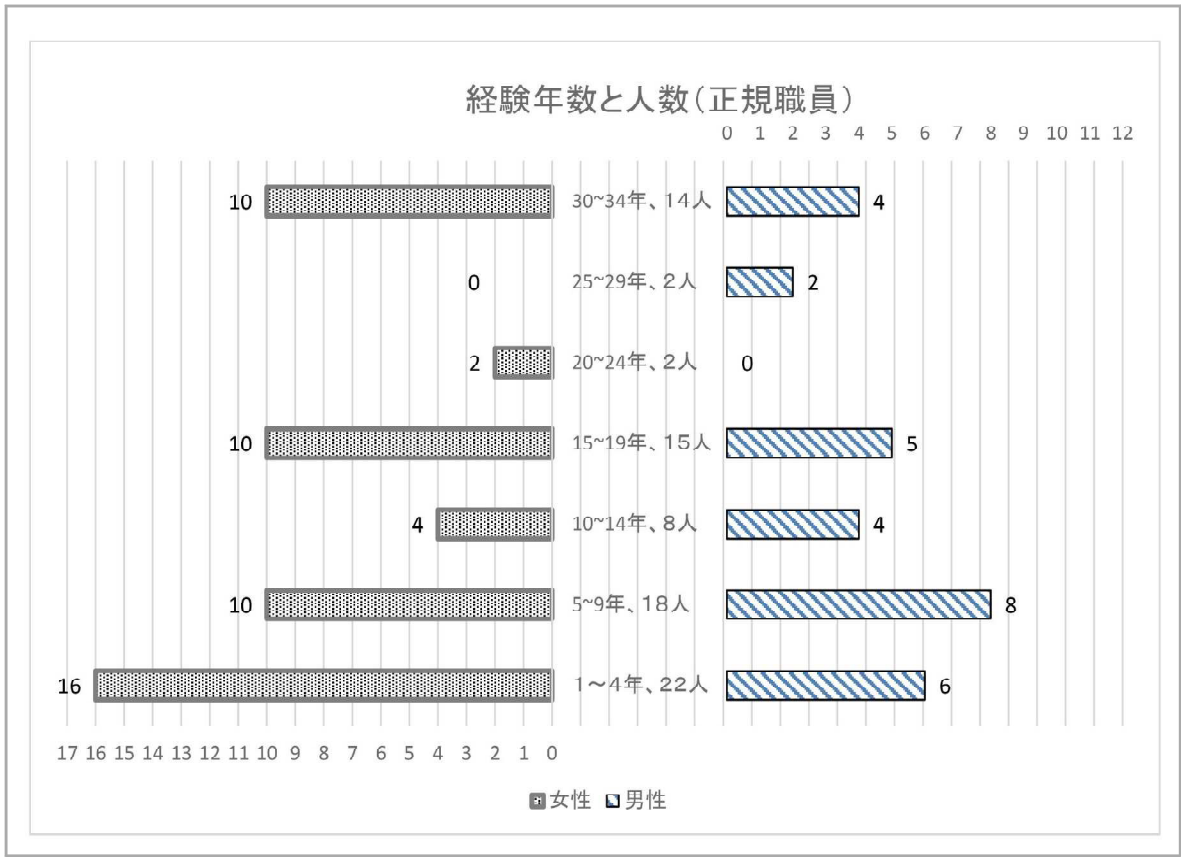
(H28は3/1現在数値)

② 人件費の増減予測

(単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	増減(H31-H28)
正規職員	318,000	352,000	359,000	379,500	61,500
常勤嘱託職員	43,000	46,000	47,000	48,000	5,000
常勤臨時職員	26,000	26,000	39,000	39,500	13,500
非常勤職員	38,000	37,000	38,000	39,000	1,000
計	425,000	461,000	483,000	506,000	81,000





〈基本給プロット図 正職員・嘱託〉



#### 4 職員給与の適正化

##### (1) 給与改定のポイント

勤務の特殊性や業務負担に応じた諸手当制度への見直しを行う。なお、給与適正化にあたっては、職員配置計画と施設整備計画に基づく資金見通しとの整合を図りながら、一体的に推進していく。

##### (2) 今後の検討課題

###### ① 給与決定のあり方

給料表、扶養手当、住居手当、通勤手当については、一関市の給与改定に準拠していくことや、賞与その他の諸手当を含めた給与水準全体については、法人の財務状況や他法人等の状況を勘案して決定していくことが、より妥当性があり、職員と十分な協議を行い決定していくこととします。

###### ② 勤務実績の給与への反映

人事考課制度の導入により、職員一人一人のやる気を高め、組織を活性化させることが必要である。考課者訓練等を積み重ね、考課者が一定レベルの評価スキルを身につけた段階で、勤務実績を給与に適切に反映できるようにする。なお、給与処遇への反映方法については、賞与そのもののあり方を含め、職員と十分な協議を行い、公平性と納得性を確保していくものとします。

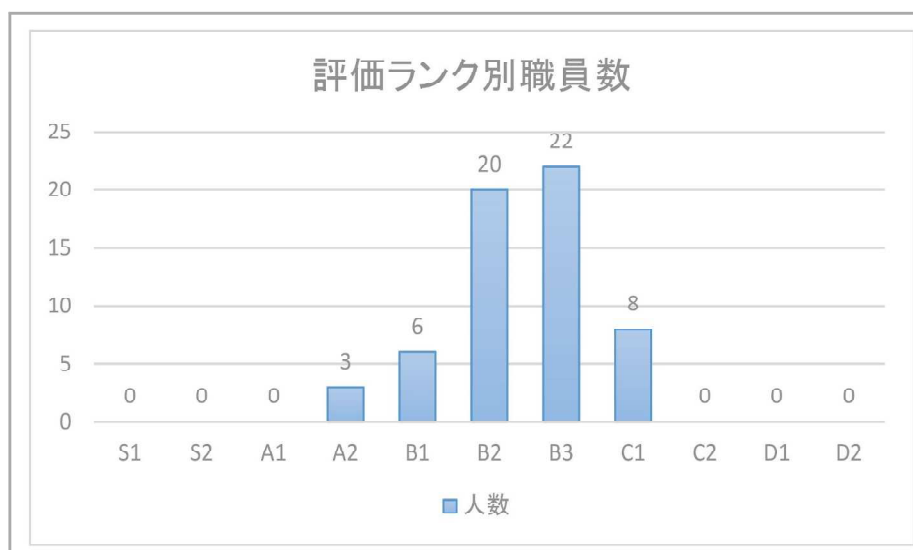
###### ③ 人材育成

職員配置計画に基づき、職員を採用していく計画であり、これらの有為な人材を組織に定着させるとともに、その後の育成、更には職員確保の観点からも、研修制度の充実が必要です。

人材の量的拡大のみでなく、その質の向上を目指して、職員の声を聞きながら、人材育成全般について研修機会を捉え進めていくこととします。

平成28年度人事考課実績

人事考課による評価ランク	S 評価		A 評価		B 評価			C 評価		D 評価	
	S1	S2	A1	A2	B1	B2	B3	C1	C2	D1	D2
総合評価点数	81~90	71~80	63~70	55~62	50~54	44~49	39~43	31~38	23~30	12~22	0~11
成績率	120	115	110	105	102	100	98	95	90	85	80
実績数(人)	0	0	0	3	6	20	22	8	0	0	0



## 5 中期資金見通し

(単位:千円)

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
事業活動による収入	収入	693,562	719,700	744,600	
	内	ふじの実学園	187,582	192,200	196,600
		第二ふじの実学園	259,704	266,100	272,200
		ワークジョイふじの実	78,795	83,100	87,500
		ワークジョイかわさき	68,130	72,200	76,300
		グループホームふじの花	81,089	86,700	92,500
		地域生活サポートセンター	18,079	19,300	19,400
	訳	本部	183	100	100
	支出	688,322	714,700	739,800	
	内	人件費	458,746	483,000	506,000
訳		事業費・事務費等	229,576	231,700	233,800
収支差額		5,240	5,000	4,800	
施設整備	施設整備費	91,248	36,300	95,850	
	財源	基金及び建設積立金	57,298	24,350	83,900
		補助金	33,950	11,950	11,950
積立金残高		229,578	234,078	148,578	

## 6 重点事項と基本施策

第Ⅲ期計画では、施設整備計画、職員配置計画及び職員給与の適正化の一体的推進に取り組むほか、「Ⅲ 計画の柱」のもと、次表のとおり重点項目及び基本施策を定め、事業運営に取り組んでいくこととします。

計画の柱	重点項目	基本施策
1 利用者の満足、家族の安心、地域の信頼を得る福祉サービスの提供	サービスの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別ケアの推進</li> <li>・ 医療的ケア実施体制の強化</li> </ul>
	利用者の安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災計画の策定</li> <li>・ 危機管理マニュアルの点検</li> <li>・ 事故防止対策の強化</li> <li>・ 避難計画の点検</li> <li>・ 法令遵守マニュアルの点検</li> <li>・ 防犯設備の設置</li> </ul>
	公益的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の福祉ニーズへの対応</li> <li>・ 地域社会貢献への取り組み</li> </ul>
2 人を育て、人を活かし、人を大切にする職場環境の確立	職員の確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員募集と職員採用試験のあり方</li> <li>・ 職員研修の充実と資格取得に対する支援・評価等のあり方</li> <li>・ 資格取得のための職員研修派遣のあり方</li> </ul>
	人事考課制度を活用した組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標設定による経営計画の推進</li> <li>・ 評価スキルの向上と勤務実績の給与への反映</li> </ul>
	働きがいのある職場環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員表彰制度のあり方</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・超過勤務の削減・年次有給休暇の取得促進</li> <li>・職員の心身の健康管理の仕組みづくり</li> </ul>
3 透明性、安定性、効率性を追求した経営マネジメントの実践	組織統治と内部統制機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理の徹底</li> <li>・事業所体制等のあり方</li> <li>・監事監査及び内部監査の強化</li> </ul>
	経営マネジメント力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度改正への対応</li> <li>・新たな事業展開の検討</li> </ul>
	効率的な業務執行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総務系、業務系運営システムの見直し</li> <li>・IT化の推進</li> </ul>

なお、重点項目に対する現状認識及び基本施策の考え方は、次のとおりであり、基本施策の具体的な取り組みについては、毎年度、重点活動方針において定め、取り組んでいくこととします。

## 1 利用者の満足、家族の安心、地域の信頼を得る福祉サービスの提供

### 1 サービスの質の向上

近年、福祉施設に求められる機能は、ますます高度・専門化してきている状況にあります。こうした状況下にあっても、常に良質かつ安全・安心なサービスを提供し、サービスの質を向上させることは、法人の使命でもあります。このため、次の基本施策に取り組めます。

#### (1) 個別ケアの推進

利用者一人一人の生活を支えるため、個別支援計画等に基づく個別ケアを一層推進します。

#### (2) 医療的ケア実施体制の強化

利用者の高齢化に対応するため、入所施設への医療スタッフの複数配置により、医療ケアの充実を図ります。

### 2 利用者の安全・安心の確保

大震災等の自然災害、感染症や食中毒の蔓延、重大事故の発生等施設を取り巻く様々なリスクから利用者の安全と安心を守るためには、予防対策、緊急対応の事前準備、災害対応マニュアル等の継続的検証が重要であることから、次の基本施策に取り組めます。

#### (1) 危機管理マニュアルの点検

防災計画の策定、消防計画、防災マニュアル、夜間防火管理マニュアル、感染症予防対策マニュアル、感染症発生時の対応マニュアル等の危機管理マニュアルについて、各施設間での内容の相互点検を行い、より実効性のあるものに見直していきます。

#### (2) 事故防止対策の強化

ヒヤリ・ハットの継続的実施により、事故防止マニュアル等の整備と要因分析のスキルアップに取り組んでいきます。

#### (3) 避難計画の点検

地震、土砂災害等の大規模災害の発生を想定し、岩手県並びに一関市の避難計画の策定状況を踏まえ、該当する施設の避難計画を各施設の実情に応じたものを作成していきます。

#### (4) 防犯設備の設置

利用者の安全、職員の安全のため、入所施設への防犯カメラ等の設置と警備委託会社及び千厩警察署との連携強化を図ります。

### 3 公益的な取り組み

福祉サービスの担い手が多様化する中、社会福祉法人の存在意義が問われている。社会福祉法の改正により、社会福祉法人にしかできない、あるいは社会福祉法人だからこそできる公益的な取り組みを進めることは、極めて重要な課題であり、このため、次の基本施策に取り組むこととします。

#### (1) 地域の福祉ニーズへの対応

地域における新たな福祉需要や地域の課題を積極的に把握するため、自治体、社会福祉協議会、住民自治協議会等関係機関との連携を密にし、在宅の障害者への支援等地域に対し、積極的に還元する取り組みを進めていく。また、大学、福祉専門学校等の実習受け入れ、中・高生の福祉体験学習の受け入れを通して、福祉人材の養成や次世代育成にも積極的に貢献していくこととします。

#### (2) 地域社会貢献への取り組み

本法人は、地域に支えられ 30 有余年を経過したところであり、今後も地域とともに歩むことが基本であり、地域に貢献できる取り組みを進めていきます。

## 2 人を育て、人を活かし、人を大切にする職場環境の確立

---

### 1 職員の確保と育成

職員配置計画を基本に、毎年度職員を採用し育成していかなければならないが、現下の厳しい雇用環境の中、いかに職員を確保するかが大きな課題である。サービスの質の向上と利用者の安全・安心の確保のため、次の基本施策に取り組むこととします。

#### (1) 職員募集と職員採用試験のあり方

職員募集については、従来のハローワークへの求人依頼とともに、リクルート用のパンフレット作成、ホームページでの採用情報掲載を行い、若い感性に的確に訴える内容を発信していく。また、職員採用試験についても、試験内容や試験方法等試験のあり方について検討を進めていきます。

#### (2) 職員研修の充実と資格取得に対する支援・評価等のあり方

新規採用職員指導担当者制度を確立し、採用 1 年目の育成体制を強化する。その後の育成と組織への定着、更には職員確保の観点からも、研修制度の更なる充実が必要である。このため、職員研修担当者を配置し、職員研修の見直し、資格取得に対する支援・評価等のあり方、その他人材育成全般についての取り組みます。

#### (3) 資格取得のための実務研修のあり方

社会福祉士、介護福祉士等国家資格取得希望者はもとより、介護職員初任者研修(ホームヘルパー取得)、実務者養成研修に参加する「資格取得休暇」の検討を進めます。

### 2 人事考課制度を活用した組織力の向上

人事考課制度は、職員個々の仕事の成果や仕事に対する姿勢・態度、仕事をする上で発揮した能力・技術を適正に評価することで、職員個々の人材育成ニーズを明確にし、本人及び上司がお互いに共有し、活用するための人材育成ツールである。また、目標管

理制度を活用することにより、理念の浸透を図るとともに、組織目標を達成することで組織力を高めることが重要である。このため次の基本施策に取り組むこととします。

(1) 目標設定による経営計画の推進

目標達成のための具体的な行動計画を各年度の事業計画に定めるとともに、その実行にあたっては、人事考課制度の目標管理制度と結びつけ、職員の主体的な取り組みを促していく。また、管理監督者が進捗状況を適切にマネジメントするとともに、部下職員との円滑なコミュニケーションが行えるよう必要な研修を実施していきます。

(2) 評価スキルの向上と勤務実績の給与への反映

考課者個々の評価スキルの違いにより、人事考課に不均衡が生じないように、考課者全員が一定の評価スキルを身につけられるよう、考課者訓練に取り組んでいく。その上で、人事考課結果の給与処遇への反映について検討・実施していきます。

### 3 働きがいのある職場環境の構築

現実の労働環境等で悩み、不安を抱えている職員も多いことが離職の要因になっていると推察されることから、職員の抱える悩みや不安をできる限り解消し、職員の満足度を高めていくことが、よりよいサービスの提供につながるものと考えます。このため、次の基本施策に取り組むこととします。

(1) 職員表彰制度のあり方

職員表彰制度における功績顕著表彰と結びつけ、より優れた取り組みを表彰することで、組織への貢献に報いるとともに、今後の取り組み意欲の向上につながるよう、そのあり方について検討を進めます。

(2) 時間外労働の削減と年次有給休暇の取得促進

どのような改善・工夫を行えば、時間外労働を削減できるのか、年次有給休暇や連続休暇が取得しやすくなるのか、また、自己研鑽のための研修参加や資格取得のための休暇のあり方はどうあるべきか等各職場の声を聞きながら検討していきます。

(3) 職員の心身の健康管理の仕組みづくり

職員の抱える様々な悩みや不安をできる限り解消し、職員の心身の健康を維持していくための仕組みはどうあるべきか、各職場の声を聞きながら検討していきます。

## 3 透明性、安定性、効率性を追求した経営マネジメントの実践

---

### 1 組織統治と内部統制機能の強化

本法人は、指定障害者支援施設ふじの実学園をはじめとし多様な社会福祉事業を経営しております。これらの事業は社会保障という国の重要な政策の一環として行われるものであり、極めて公共性・公益性が高いものであります。本法人は、こうした社会的責任の重さと公共的使命の重要性を十分に認識し、高い倫理観を持って事業運営に取り組み、地域社会の期待に応えていかなければなりません。このため、次の基本施策に取り組むこととします。

(1) 危機管理の徹底

危機管理においては、初動態勢の確立が極めて重要であり、情報連絡の3原則「とりあえず一報」「悪い情報ほど早く」「迷ったら報告」を徹底していかなければなりません。管理職研修等を行い、危機管理意識の向上に取り組んでいきます。

(2) 事業所体制等のあり方

各施設の収支状況、施設間連携の可能性等様々な要素を考慮しながら、各施設の職員体制の見直しについて検討していきます。

(3) 監事監査及び内部監査の強化

現在法人監事による監査と会計事務所による会計指導を中心として監査を実施しており、今後も、よりきめ細やかな監査を実施していきます。

## 2 経営マネジメント力の向上

社会福祉法の改正により、経営組織の在り方、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化が一層求められたところであり、法改正の趣旨を前向きに捉え、取り組むこととします。

(1) 制度改正への対応

制度改正や情報を積極的に収集し、各施設と情報を共有しながら、サービス内容の見直し、運営規程や重要事項説明書等の契約関係書類の見直し等の諸準備を進めるとともに、各施設と問題点を共有しながらその解決に取り組んでいきます。

(2) 新たな事業展開の検討

自治体や関係機関との連携を密にし、既存の事業の枠組みにとらわれない新たな事業展開の可能性について検討していきます。

## 3 効率的な業務執行

各種支援ソフトの導入により、効率的な業務執行がなされておりますが、更に業務を効率化していくことが必要である。このため、次の基本施策に取り組むこととします。

(1) 総務系、業務系運営システムの見直し

支援ソフトのバージョンアップと新規導入も検討し、一層の業務効率化を推進していきます。操作の習得と運用ルールの確立等も必要であり、随時説明会等を開催し周知徹底を図ることとします。

(2) I T化の推進

各種支援ソフトの導入を推進するとともに、情報の共有化により、業務の軽減と効率化を図ります。

指定障害者支援施設ふじの実学園

1 目指すべき施設像

施設をとり巻く現状	一旦入所すると「終の棲家」となり、施設からの地域移行が重要テーマと言われつつも有効な手立てが見つかりにくい現状があります。その最大の原因は地域生活基盤が脆弱なことであり、この地域移行という重要テーマを実現させようとするならば、地域社会での安心の創造と親・家族・施設へのインセンティブが働く仕組みが必要になると考えます。 過去に比較すると間違いなく重度・高齢化が進み、従来からの花卉や農作業を主体とした活動が難しくなっています。どこまでが生活介護及び入所施設サービスとしてのスタンダードなのかという課題は、利用者・家族の意見も踏まえて検討を要する部分です。
今後目指すべき役割	平成 27 年度大規模改修工事によって居住環境の改善が図られました。当面、現定員が適正な集団規模であり現状を維持しながら、施設の長寿命化のため計画的に改修等を実施していきます。 障害者支援施設は地域において安心して暮らせる住まいの場であると共に、他の事業主体では対応できない様々な福祉ニーズを充足することによって、積極的に地域社会に貢献していくことができます。さらに生活の質の向上と社会参加の促進を目指し、利用者個々のライフステージにあった暮らしができるように努めます。 生活介護事業は、創作的活動、生産活動の機会の提供の他、身体機能や生活能力向上のために必要な支援を行います。また利用者の思いと願いに寄り添いながら、一人ひとりが満足し、その人らしさが発揮できるサービスを提供していきます。
機能	地域の身近な福祉拠点を目指し、利用者が地域住民の一人として生活できるよう支援していきます。

2 課題解決に向けた取り組み

(1) 利用者の満足、家族の安心、地域の信頼を得る福祉サービスの提供

課 題	不審者侵入への対策				
現状認識	設立から開かれた施設が理念であり、不審者に対して無防備な状態である				
取組方針	防犯カメラ等を設置し、不審者に備える				
	指標	目標値			
		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
	防犯カメラ設置	検討・実施	継続	継続	出入口 3 カ所
	防犯マニュアルの見直し	見直し	実施	見直し	
	防犯訓練の実施	1 回	1 回	1 回	

課 題	事業所からの情報発信				
現状認識	情報紙の内容が分かりづらく、不定期に発行している状況である				
取組方針	保護者の意見等を参考しながら見直しをする				
	指標	目標値			
		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
	きずなの発行	4 回	4 回	4 回	
	面会日の設定	6 回	6 回	6 回	

課 題	利用者の健康寿命の延伸			
現状認識	看護師の勤務は、平日の日中勤務			
取組方針	複数体制で土曜日に看護師を配置し、健康管理体制を強化する			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
看護師の 2 人体制（兼務含）	実施	検証見直し	－	
バイタルチェック項目の強化	検討・実施	継続	継続	
専門職による栄養ケア会議の開催	検討	実施	継続	

課 題	利用者の満足度を高める			
現状認識	平成 28 年度の満足度調査では概ね満足しているが、不満と答えた方もいる			
取組方針	継続して調査を実施し満足度を高めるとともに保護者にも調査を実施する			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
回答者数の増	10 %	10 %	10 %	平成 28 年 26 名
保護者への調査	検討	実施	見直し・実施	
不満回答の減	5 %減	5 %減	5 %減	対前年比

(2) 人を育て、人を活かし、人を大切に作る職場環境の確立

課 題	職員の資質の向上と職場環境の改善			
現状認識	人材確保が難しい時代となっている			
取組方針	職員の定着化を図る			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
職員の研修会参加（1 人当）	1 回以上	1 回以上	1 回以上	
年次取得の増（事業所平均）	8 日間	9 日間	10 日間	平成 28 年実績 6.13 日

課 題	風通しが良く、明るい職場をみんなで作る			
現状認識	受け身、継続が多く、マンネリ化の傾向が見られる			
取組方針	職員が積極的に提案し、即実践できる風土づくりを目指す			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
提案・意見を積極的に発言する	1.0 件	1.2 件	1.2 件	提案件数/職員数
上司との面談の定例化	2 回	2 回	2 回	上期・下期
業務分掌の改善提案(職員 1 人当)	1 件	1 件	1 件	

課 題	法令遵守の意識を高める			
現状認識	良き市民として地域社会に受け入れられる行動が求められる			
取組方針	コンプライアンスの重視			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
虐待防止研修派遣	1 名	1 名	1 名	
コンプライアンス研修（全体）	1 回	1 回	1 回	



## (3) 透明性、安定性、効率性を追求した経営マネジメントの実践

課 題	業務改善（定時内に業務を終える）			
現状認識	事務処理ができない場面がある			
取組方針	作業効率を見直しながらパソコンの増設を検討する			
指 標	目 標 値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
パソコンの増設	2 台増	—	—	平成 28 年末 5 台
パソコンの再配置	検討・実施			

課 題	居室はLDE化実施済み。未実施は廊下、事務室、食堂等			
現状認識	従来の蛍光灯の在庫があったことと初期投資が必要なことから一部未実施であった			
取組方針	施設の省電力の推進			
指 標	目 標 値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
事務室等	250	—	—	
廊下・ディールーム	検討	実施	継続	
食堂・厨房	検討	設計	実施	

## 3 固定資産物品購入計画

単位：千円

購 入 物 品 名	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	3 年間合計額
	予算額	予算額	予算額	予算合計額
冷凍冷蔵庫・冷蔵庫（ショーケース）	432	600		1,032
商用車（プロボックスタイプ）		1,800		1,800
防犯カメラ（出入り口 3カ所）	616			616

## 4 修繕計画

単位：千円

修 繕 内 容	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	3 年間合計額
	予算額	予算額	予算額	予算合計額
ディールームの上部屋根修繕	3,000			3,000
施設本体屋根修繕（設計含み）		3,000	70,000	73,000

## 指定障害者支援施設第二ふじの実学園

### 1 目指すべき施設像

施設	第二ふじの実学園は平成12年に開所し、現在は生活介護及び施設入所支援のサービスを一体的に提供する障害福祉施設としての役割を担っています。現在の利用の平均年齢は58.5歳と高齢化がすすみ、その中でも後期高齢者医療保険の対象者利用者は約40%を占めています。常に、いのちそして健康状態の維持を基本スタンスとして、生きがいのもてる生活を支えていく必要があります。
取り組み	家族との関係は、加齢ともに希薄になる傾向がありますが、心のよりどころとしての関係をく保ちながら、緊急時などに対応していただけるように関係性を大事にしていく必要があります。
現状	利用者の健康の変化を早期に察知し、早期に治療できるよう、医療スタッフの充実が求められていることから、生活支援スタッフにおいても、緊急時の対応が迅速にできるよう救急救命講習などをしていく必要性があります。
今後	昨年神奈川県での障害者支援施設で殺傷事件が起きましたが、当施設でも利用者が安心して暮らせるよう、適切に施設の防犯対策を取り組んでいく必要があります。しかしそれは、単に施設を閉鎖的にすることではなく、これまでどおり地域に開かれた施設であり続けること、地域における福祉サービスの拠点として、その役割を担っていく必要があります。利用者が地域の皆さんとふれあいながら生活を送れるように、特に小グループでの活動を推進し、利用者のニーズにこたえられる支援をしていきます。
役割	当施設はこれまでも施設の整備をしてきましたが、今後も利用者が安心快適に生活できるよう環境を整えていきます。利用者の心身の状況に応じた日中活動に取り組み、日々の継続的な活動や創造的な活動を支援していきます。また、季節的な行事を取り入れて変化のある日常生活を送れるよう支援していきます。
機能	加齢により疾病の自然増は免れないことではありますが、健康寿命を延ばし長く健康で充実した生活を送れるように支援していきます。緊急的な場面もあることから、命を守る適切な対応ができるよう救急救命講習の受講をはじめとしてスタッフのスキルを高めていきます。

### 2 課題解決に向けた取り組み

#### (1) 利用者の満足、家族の安心、地域の信頼を得る福祉サービスの提供

課題	利用者の健康寿命の延伸			
現状認識	医療面の充実が求められている			
取組方針	看護師増員体制で休日の日中勤務をする			
指標	目標値			
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
医療保健面の充実	検討・実施	継続	継続	
緊急時対応シートの充実	検討・実施			

課題	施設の防犯対策			
現状認識	設立から開かれた施設づくりをすすめてきており、外部からの侵入者に対して無防備な状況である			
取組方針	防犯カメラ等の器機の設置や防犯訓練を実施する			
指標	目標値			
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
防犯器機の設置	設置	—	—	

防犯訓練の実施	検討・継続	継続	継続	
防犯マニュアルの見直し	見直し	見直し	見直し	

課 題	施設の長寿命化と快適な生活空間の整備			
現状認識	トイレ、洗面所及びロッカー改修が必要な時期になってきている			
取組方針	利用者の心身の状況を確認しながら改修をすすめる			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
トイレ・洗面所（2カ年計画）	実施	実施		
ロッカー	検討	実施		

課 題	利用者のニーズや要望に応えた支援			
現状認識	モニタリング等で実施はしているが、多角的に要望を確認する必要がある			
取組方針	利用者の満足度調査、分析および改善案の実施			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
紙面及び聞きとりによる調査	検討・実施	実施	実施	

(2) 人を育て、人を活かし、人を大切にする職場環境の確立

課 題	職員の資質の向上と定着化			
現状認識	人材の確保が難しい時代となっている			
取組方針	研修の実施及び業務の効率化			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
職員の研修によるスキルアップ	継続	継続	継続	
資格取得の励行	継続	継続	継続	
人事考課による意識の向上	継続	継続	継続	

課 題	利用者に対する適切な支援に必要な職員の心身の健康管理			
現状認識	時間外労働を減らすとともに、年次有給休暇取得の推進			
取組方針	業務の効率化			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
業務見直しおよびマニュアル作成	検討・実施	実施	実施	
年次有給休暇の取得	10 日間以上	12 日間以上	14 日間以上	

(3) 透明性、安定性、効率性を追求した経営マネジメントの実践

課 題	利用率の維持向上			
現状認識	28 年度実績からも空床の期間がみられた(実績 95 %)			
取組方針	他事業所との連携を図る			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
利用率	100 %	100 %	100 %	
短期入所及び日中一時支援の受け入れ	50 ~ 75 %	50 ~ 75 %	50 ~ 75 %	

### 3 固定資産物品購入計画

単位：千円

購入物品名	平成29年度	平成30年度	平成31年度	3年間合計額
	予算額	予算額	予算額	予算合計額
防犯カメラ等設置	1,000			1,000
ガス炊飯器	1,000			1,000

### 4 修繕計画

単位：千円

修繕内容	平成29年度	平成30年度	平成31年度	3年間合計額
	予算額	予算額	予算額	予算合計額
浴室シャワー増設及び排水改修	3,500			3,500
トイレ及び洗面所改修	16,700	6,000		22,700
正面玄関車寄せスペース設置（花壇撤去）	680			680
居室ロッカー改修		8,000		8,000
交流スペース収納装置	500			500
特殊浴室パネルヒーターガード及び手摺り設置	900			900

## 障害福祉サービス事業所ワークジョイふじの実

### 1 目指すべき施設像

施設	<p>現在 34 名の方に契約をいただき、町内はもとより、千厩、川崎、花泉の各方面から通所いただいているところです。就労継続支援B型事業では、ハウスを活用した野菜栽培や地域の事業所からの受託作業、一関市国民健康保険藤沢病院内の売店運営等に取り組んでいますが、移転当時はまだ若く体力的にも元気な方が多かった利用者も次第に高齢化と重度化が進み、全体的に働く力が落ちてきていることは否定できない現状です。これまでの工賃支給レベルを維持しながら現在取り組んでいる活動に加えて今後、高齢となった利用者が取り組める事業を導入していくことも必要な状況となってきています。生活介護事業では、利用者個々のペースに合わせて健康づくり、創作活動や軽作業といった日中活動を提供してきましたが、今後更に生活介護の利用を希望する方が増えていくことが予想されます。</p>
状況	<p>また、事業所本体の老朽化が顕著であり、利用者が活動する上で不都合な面も散見されるようになってきています。</p>
今後	<p>事業所本体の老朽化については、建物自体の現状について細部までの確に把握し、優先順位を確認しながら適切に整備を進めていくことで、利用者に安全安心な環境を提供していきます。</p>
目指す	<p>圏域で生活する障害を有する方で施設利用を希望される方の実態を把握し、就労継続支援B型事業及び生活介護事業のニーズに対応したサービスを提供する為に必要な体制をハード、ソフト両面から整備していきます。</p>
べき	<p>就労継続支援B型事業では、利用者の高齢化による体力低下等にも対応する日中活動(作業)の提供が求められてきていることから、地域や企業と連携を図っていきます。</p>
役割	<p>生活介護事業では、個々のニーズを把握した上で、健康面での支援をはじめ、在宅では困難と思われるサービスの提供に努めていきます。</p>
と	<p>こうした機能を確保するために、利用者、家族から信頼される職員の安定確保と働きやすい</p>
機能	<p>職場環境をめざしていきます。</p>

### 2 課題解決に向けた取り組み

#### (1) 利用者の満足、家族の安心、地域の信頼を得る福祉サービスの提供

課 題	利用者の健康を把握するため、家庭から情報を得て共有する				
現状認識	在宅利用者・家族の高齢化等による医療機関受診と情報伝達の能力が低下している				
取組方針	利用者の健康状況の把握と不具合の早期発見に努める				
	指標	目標値			
		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
	日々の健康状況の把握	70 %	80 %	90 %	
	定期通院情報不足者の通院同行	70 %	80 %	90 %	
	連絡帳、通信等を通じた情報提供	80 %	90 %	90 %	
	常勤看護師の配置		○	○	

課 題	利用者のコミュニケーション能力不足による周囲とトラブル等の軽減				
現状認識	施設内や家庭でのストレスを上手に発散できずに利用者間でトラブルに発展している				
取組方針	全利用者とは計画的および必要時に面談を行い、事前にトラブルを回避、軽減する				
	指標	目標値			
		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
	利用者との個別面談の拡充	3 回以上	4 回以上	5 回以上	年間
	小グループによる余暇、外出等	1 回以上	2 回以上	2 回以上	年間

## (2) 人を育て、人を活かし、人を大切にする職場環境の確立

課 題	専門知識を有する職員の増			
現状認識	職員数に余裕がなく日中は現場優先となり研修の機会が少なく、視察受入等も少ない			
取組方針	職員間の連携強化、研修機会を設けると共に、外部から関心のある方を受け入れる			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
各職員の年間の研修参加件数	1 件以上	1 件以上	2 件以上	年間一人当たり
研修参加職員による内容伝達	80 %以上	90 %以上	90 %以上	全研修のうち
各事業所を体験する	年 1 回以上	年 1 回以上	年 1 回以上	法人内外を問わない
外部視察者、ボランティアの受入	年 3 回以上	年 5 回以上	年 5 回以上	

課 題	自分たちの職場環境改善に向けた意識が十分でない			
現状認識	毎日の引き継ぎや毎月の職員会議での職場環境改善に係る発言が少ない			
取組方針	職務遂行上有効な対策を考え発信するとともに就業時間内業務終了を目指す			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
自らの意見を会議で発言	2 件以上	2 件以上	2 件以上	年間一人当たり
通常業務の定時内終了	90 %	90 %以上	90 %以上	

課 題	有給休暇を有効かつ健全な取得			
現状認識	必要に迫られての休暇取得が主で、リフレッシュ、意欲向上に繋がる休暇取得がない			
取組方針	仕事に対する意欲向上に結びつく休暇取得に努める			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
リフレッシュが目的の休暇取得	3 回/年	5 回/年	8 回/年	一人当たり取得日数

## (3) 透明性、安定性、効率性を追求した経営マネジメントの実践

課 題	定時に業務を終了させる			
現状認識	多くの事務整理は利用者退勤後となるがパソコン不足等により作業できない場合がある			
取組方針	事業所の稼働時間と事務処理時間のバランスの検討およびパソコン作業体制の確保			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
パソコンの事業所内合計台数	5 台	6 台	7 台	

課 題	一次加工事業に係る収入増			
現状認識	試作品に係る問い合わせは一定程度あるものの、安定した加工依頼に結びつかない。			
取組方針	一定の取引先の確保および自家商品開発による収入増を目指す。			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
年間収入	1,000	1,500	2,000	単位：千円
自家商品の製作、売上増	5 %	10 %	10 %	年間収入に対して

課 題	野菜生産流通事業の今後について検討する			
現状認識	北方地区土地基盤整備事業の開始により現在の借用地継続使用の是非が不透明である			
取組方針	同事業の進行を見守りながら必要な手立てを講じていく。			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
借用地での事業継続について協議	60 %	70 %	80 %	
ハウス撤去			撤去準備	平成 32 年撤去

課 題	圏域の利用者状況を見極め、定員の増減、事業内容の変更等について適切に取り組む			
現状認識	生活介護：契約者 15 名/定員 10 名 野菜生産事業対応困難利用者が散見される。			
取組方針	利用者のサービス利用の希望が叶うよう、相談事業所と連携し、適切な定員を確保する			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
利用者の希望するサービスの提供	90 %	95 %	95 %	

### 3 固定資産物品購入計画

単位：千円

購 入 物 品 名	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	3 年間合計額
	予算額	予算額	予算額	予算合計額
一次加工用温水給湯設備設置工事	540			540
アコーディオンカーテン設置工事	248			248
ブラインド設置工事	112			112
マイクロバス			7,100	7,100

### 4 修繕計画

単位：千円

修 繕 内 容	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	3 年間合計額
	予算額	予算額	予算額	予算合計額
トタン屋根ペンキ再塗装		○(未定)		
床の不具合箇所の張り替え外壁張り替え		○(未定)		
外壁張り替え			○(未定)	

## 障害福祉サービス事業所ワークジョイかわさき

### 1 目指すべき施設像

施設 取 巻 く 現 況	<p>当事業所は現在、就労移行支援(定員6名)1名と就労継続支援B型(定員20名)25名の方と利用契約を結んで頂いており、利用率は95パーセント以上の安定した利用状況となっております。就労移行については一般就労を目指し、ハローワーク求職登録(障がい者枠)の実施、一関広域障害者就業センターと連携をとりながら斡旋してきましたが近年、障がい者雇用を受け入れてきた企業等が就労継続支援A型事業所となり、一般就労が厳しい状況となっております、現在、A型事業所等への移行を目指し、事業所見学や実習を取り組んでいます。</p> <p>利用者の送迎については交通アクセスに難があり、利用者の97パーセントが送迎サービス現況を利用して頂いています。</p> <p>工賃の月額平均については平成28年では13,918円と3年前に比して500円のアップとなっておりますが県内の平均工賃18,712円には未だ届かず、更なる計画的な取り組みが必要となっております。</p> <p>作業科目は食品加工、受注作業、施設外作業を取り組んでいます。施設外作業では南部一郎カボチャの露地栽培を始め、直接マランツの工場に行って椎茸の培養に関わる作業を取り組んでいます。食品加工においては新商品の開発をし、パン、菓子、シフォンケーキ、コーヒー等を中心に移動販売車で毎日各事業所への販売、各種イベントや地域行事での販売を積極的に取り組み、地域との関わりを深めております。受注作業のショウエイ、千厩工業については従来より安定した受注量を提供して頂いています。</p>
今 後 指 す べき 役 割 機 能	<p>当事業所は今後も、利用者主体のサービス提供を基本とし、働く場、収入を得る場、そして大切な視点として尊厳の保持を第一とし、利用者満足の実現を目指すと同時にサービスの担い手である、職員の満足も目指します。</p> <p>就労移行支援事業の廃止と就労継続支援B型の定員増20名から30名となり、受注作業を増やし、利用者の適性にあった作業内容を提供することで、意欲を高め、工賃向上にも繋げていきます。</p> <p>定員増に伴い、建物の環境を整備していく必要があり、今後は活動及び休憩スペースの改善、外周舗装の整備を行います。</p> <p>地域福祉においては福祉資源としての役割を理解し、自らが地域に出向いて積極的に地域活動へ参画し、関係づくりを行うことで地域福祉の向上を目指し、社会資本のひとつとしてミッションを果たします。</p> <p>人材育成については職員一人一人の志向、専門性を尊重しながらも、組織にとって必要な能力との整合性をもたせ、その能力を最大限に発揮できるような環境整備を行います。</p>

### 2 課題解決に向けた取り組み

#### (1) 利用者の満足、家族の安心、地域の信頼を得る福祉サービスの提供

課 題	ホスピタリティ・マインド			
現状認識	就労の場としての意識が強い			
取組方針	「もてなす心」で喜びを感じてもらえるサービス提供			
	指標	目標値		
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
施設評価の向上		40%	50%	70%

課 題	家族とのコミュニケーションを良好に保つ
現状認識	連絡帳での情報共有となっている
取組方針	コミュニケーションの基本である、信頼関係をより構築



指標	目標値		
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
通信等を介した家族からの情報収集	70 %	80 %	90 %
連絡帳による日々の心身の状況把握	70 %	80 %	90 %

課 題	地域との情報共有（顔の見える関係づくり）			
現状認識	地域行事への参加、地元自治会と共同作業。販売等で繋がりがある			
取組方針	地元の行事や地域活動に参加を通し、ネットワークを広げる			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
地域交流の参加者数	10 人	15 人	20 人	
団体・個人のボランティアの数	2 件	3 件	4 件	
実習生の受け入れ（延べ人数）	2 人	3 人	4 人	

課 題	事故防止策の強化と感染症予防の徹底			
現状認識	感染症発生時に家庭の協力も含めた拡大防止策を実施			
取組方針	事前予防策の実施			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
感染者数	0 人	0 人	0 人	
事故報告者数	0 人	0 人	0 人	

(2) 人を育て、人を活かし、人を大切にする職場環境の確立

課 題	ワーク・ライフ・バランスの組織的推進			
現状認識	意欲向上に繋がる休暇取得が少ない			
取組方針	仕事と生活の両立を実現するために組織として休暇取得を支援する			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
家庭・地域生活等に関わる休暇取得	3 回/年	5 回/年	8 回/年	一人当たり取得日数

課 題	働きがいのある職場づくりをめざす			
現状認識	日々、現場のノルマに追われ目標などを見失う傾向がある			
取組方針	職場の目標を明確にし、達成の喜びを職場全体で共有する			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
現場の問題・課題をチームで掲げる	1 回/年	2 回/年	3 回/年	職場の一体感

課 題	専門知識・技術の向上により良質なサービスを提供する			
現状認識	既成の発想にとらわれている傾向がある			
取組方針	研修会等で外的刺激を受け、知識のリニューアルそして共有化できる場を設ける			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
各職員の年間の研修参加件数	1 件以上	1 件以上	2 件以上	年間一人当たり
研修参加職員による内容伝達	80 %以上	90 %以上	90 %以上	全研修のうち

(3) 透明性、安定性、効率性を追求した経営マネジメントの実践

課 題	コンプライアンスの有効機能する業務体制			
現状認識	法令遵守の意識を高める			
取組方針	コンプライアンス研修の実施			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	

コンプライアンス研修の実施回数	1回	1回	1回	
-----------------	----	----	----	--

課 題	定員増に伴う就労支援事業収入増（工賃向上）			
現状認識	事業収入が横ばい状態			
取組方針	受託作業の拡充			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
月の平均事業収入（受託部門）	400	450	500	単位：千円

課 題	災害発生時におけるサービスの事業継続			
現状認識	土砂災害警戒区域			
取組方針	事業継続計画書(BCP)の策定及び土砂災害を想定した避難訓練の実施			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
水害・土砂災害：避難訓練	1回	1回	1回	
火災・地震：避難訓練	2回	2回	2回	※総合防災訓練含む

### 3 固定資産物品購入計画

単位：千円

購 入 物 品 名	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	3 年間合計額
	予算額	予算額	予算額	予算合計額
外周舗装工事	4,000			4,000
エアコン設置工事(相談室)		200		200
室内照明器具(LED 化工事)		800		800
食品用冷凍冷蔵庫		650		650
10 人乗りワゴン車 1 台		3,500		3,500
ユニットハウス作業棟 (12 坪)			4,500	4,500

### 4 修繕計画

単位：千円

修 繕 内 容	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	3 年間合計額
	予算額	予算額	予算額	予算合計額
浄化槽清掃管理補助装置(グリストラップ)	430			430
事業所看板製作設置		100		100
トタン屋根塗装			300	300

## グループホームふじの花

### 1 目指すべき施設像

施設 を 取 巻 く 現 況	施設や地域（在宅）から、新しくホームを利用する方々は障がいの重い方が増えている傾向にあります。一方では、現在、施設を利用されている方々も年々高齢化してきていることから、ふじの花の支援内容は身辺介護や健康維持の取り組みが必要な状態に変化してきています。
今 後 指 す べ き 役 割 と 機 能	このことは、今後施設と同様の支援体制を構築し重度者、高齢者を受け入れていくのか、それとも、今まで通りの支援体制で、中軽度者を中心としたホームとして継続するののかという将来的なビジョンについて法人全体として再検討しなければならない時期にきていると考えます。
	利用者の高齢重度化に備えて、看護師を増員するなど、介護を担当する職員を配置し、健康管理と医療的な処置及び身辺介護の支援を行うことをめざします。また、相談支援専門員やケアマネージャー等と連携し、高齢化によりグループホームにおける生活が困難になった方の、高齢者介護施設への移行と介護サービスの利用を推進して行きます。
	平成 29 年度には、グループホームを新築し 2 名の定員増を予定していることから、現在支援員 4 名体制から 1 名増員し、5 名体制の強化を図ります。
	また、業務内容を見直し整理すること、職員の精神衛生のための研修会を実施して、明るく働きやすい職場環境を実現するよう努めます。さらには、研修を通して法令遵守（コンプライアンス）の意識を高め、成年後見制度を活用し、社会的に信頼される事業所をめざすとともに透明性のある運営をしていきます。

### 2 課題解決に向けた取り組み

#### (1) 利用者の満足、家族の安心、地域の信頼を得る福祉サービスの提供

課 題	利用者の健康管理体制の強化			
現状認識	通院や健康管理の職員の仕事内容にかかる比重が大きくなっている			
取組方針	看護師の常勤換算配置を 0.1 から 0.5 に増員する			
	指標	目標値		
		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	看護師の常勤換算配置の増	常勤 0.5	維持	維持
		平成 28 年度 0.1 → 0.5		

課 題	利用者の高齢化への対応			
現状認識	高齢化で介護が必要になった方は、そのつど介護施設への移行を取りすすめている			
取組方針	候補者をリストアップし事前に関係機関、事業所と情報を共有しておく			
	指標	目標値		
		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	高齢者ケアマネージャーへの情報提供	30 %	40 %	50 %
	介護事業所との連携、待機登録	20 %	30 %	50 %

課 題	利用者の重度化への対応			
現状認識	日常生活の中に介護的内容を必要としている利用者が増えてきている			
取組方針	世話人を増員して、介護支援に対応して行く			
	指標	目標値		
		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度

にいぬまホーム介護用世話人の配置	1名	維持	維持	
------------------	----	----	----	--

課 題	定員増にかかる職員配置の増			
現状認識	職員配置数が現状で最低基準であり、定員増をすることから増員する必要がある			
取組方針	必要職員数を確保する 常勤換算現状 3.6 → 4.6			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
職員配置の増	常勤 4.6	維持	維持	実人員 1 名増

課 題	新ホームの世話人の確保			
現状認識	世話人の安定した確保が課題となっている			
取組方針	平成 29 年度グループホームの新設による世話人の確保			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
新ホーム世話人の確保	1 名	維持	維持	

(2) 人を育て、人を活かし、人を大切にする職場環境の確立

課 題	業務の効率化			
現状認識	職員数に対してパソコン数が不足している			
取組方針	新規パソコンの購入			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
新規パソコンを購入する	1 台	維持	維持	合計 3 台

課 題	働きやすい職場環境作り			
現状認識	個別支援が基本となっているので、業務内容が複雑に成りがち			
取組方針	業務内容の見直しと簡略化			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
業務内容の見直し	50 %	100 %	維持	職員全体で取り組む
業務内容の合理化		50 %	100 %	職員全体で取り組む

課 題	職員の心身の健康維持			
現状認識	心労や肉体疲労による職員の健康管理が懸念される			
取組方針	精神衛生及び労務管理についての研修会の実施、又は参加			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
精神衛生、労働管理等の研修会への参加	準備	1 回	1 回	研修会の開催も検討

(3) 透明性、安定性、効率性を追求した経営マネジメントの実践

課 題	預かり金が高額の利用者が増えてきている			
現状認識	高額のため施設で管理するには問題がある			
取組方針	成年後見制度の利用推進			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
成年後見制度の利用の推進		1 名	1 名	合計 2 名

課 題	職員の法令遵守意識を高める			
現状認識	定期的に研修をして意識を高める必要がある			
取組方針	職員の法令遵守研修の受講			
指標	目標値			

	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
法令遵守研修を開催する	1 回	維持	維持	法人の研修に参加する

### 3 固定資産物品購入計画

単位：千円

購 入 物 品 名	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	3 年間合計額
	予算額	予算額	予算額	予算合計額
グループホーム新築工事	43,240			43,240
グループホーム新築工事に伴う備品	300			300
火災警報装置の配備	3,100			3,100
軽自動車（1200cc 相当）			2,000	2,000

### 4 修繕計画

単位：千円

修 繕 内 容	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	3 年間合計額
	予算額	予算額	予算額	予算合計額
ならいホーム屋根修繕		700		700

## 地域活動支援センターうまっこひろば

### 1 目指すべき施設像

施設	平成 28 年 7 月に「地域活動支援センターうまっこひろば」として千厩地区に開所しました。事業内容は、専門職員（精神保健福祉士等）を配置し、医療、福祉及び地域の社会基盤との連携強化のための調整、地域住民ボランティアの育成、障がいに対する理解促進を図るための普及啓発と、一関市と平泉町の委託事業である「相談支援事業」、一関市委託事業である「音楽療法等早期療育事業」を実施しています。
巻	開所したばかりということもあり、地域での認知度はまだまだ低いと地域行事等を通して積極的にアプローチを行い地域住民への理解が急務となっています。
現況	今後は、「地域活動支援センターうまっこひろば」としての活動内容の充実と、ボランティアの育成、交通手段のない在宅の障がい者の方々の地域生活支援の対応が課題となります。
今後	一関市の東部地区における地域福祉事業としての中心的な役割を担うと共に、「地域活動支援センター I 型」としての機能である障がい者（児）と地域社会との交流促進を図りサービスの提供を行います。併せて本人の希望に添ったサービスが効果的に提供され、安定した生活が送れるようサービス等利用計画を作成し、関係機関と連絡調整を行う相談支援事業の充実を図ります。
べき	平成 30 年度からの厚生労働省が策定する第 7 次医療計画では医療計画、障がい福祉計画、介護保険事業（支援）計画の 3 計画が新たに開始することから、それぞれの計画が連動するよう同一の理念を共有し、圏域毎による保健、医療、福祉関係者による支援体制（地域包括ケアシステム）が構築されることをふまえ、事業所として関係機関とのネットワークを形成し、連携することで、利用者が安定した生活が送れるよう支援していきます。また、加速する制度改正や法令制定に対して研修を重ね、常に対応可能な体制づくりと人材の育成に努めます。

### 2 課題解決に向けた取り組み

#### (1) 利用者の満足、家族の安心、地域の信頼を得る福祉サービスの提供

課 題	活動内容の充実			
現状認識	事業所で準備したプログラムで活動に参加していただいている。			
取組方針	利用者の会等を等して積極的な活動内容を取り入れていく。			
	指標	目標値		
		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	利用者の会の充実	確認	実施	継続
	事業所内でのルールづくり	検討	実施	継続

課 題	理解の促進を図るための普及啓発促進			
現状認識	地域活動支援センターの認知度が低い			
取組方針	積極的な啓発活動			
	指標	目標値		
		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
	地域行事への参加	80 %	90 %	100 %
	情報公開（ホームページ等の活用）	80 %	90 %	100 %
	一般向けの事業所開放、利用の検討	検討	実施	継続

課 題	「うまっこひろば」利用の送迎についてニーズがある。			
現状認識	交通手段のない在宅の障がい者の方の「うまっこひろば」への来所が困難			
取組方針	地域活動支援センターの送迎については市からの補助金などは無いため実施している事業所は無い。ただし、かなり以前からニーズはあるため現状を把握し市町村に提言			

	していく			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
ニーズの把握	調査	確認	実施	
市町村への提言	調査	確認	実施	
送迎についての課題解決	調査	確認	実施	

(2) 人を育て、人を活かし、人を大切にする職場環境の確立

課 題	人材育成			
現状認識	福祉の制度や法令の変化が加速化しているが、求められる相談内容が複雑化している			
取組方針	他の専門分野の研修参加			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
関係機関との連携	80 %	90 %	100 %	
他業種との交流学習会	80 %	90 %	100 %	

課 題	相談支援専門職員と地域活動センターの職員が兼務			
現状認識	相談だけに来所された方への対応が十分でなかったり、活動が慌ただしい時がある			
取組方針	活動を専門とする職員の配置とボランティアの確保			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
活動専門職員の配置	80 %	90 %	100 %	
ボランティアの育成	80 %	90 %	100 %	

(3) 透明性、安定性、効率性を追求した経営マネジメントの実践

課 題	効率的な記録方法になっていない。市への実績報告の集計に時間を要している			
現状認識	相談支援と活動センターの日誌が別々となっている			
取組方針	両方使用でき、実績報告の集計がスムーズに行えるソフトの導入を行う			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
ソフトの導入	実施	継続	継続	

課 題	利用者の状況の把握、活動に対しての要望の確認			
現状認識	開所したばかりで利用する方の活動に対する定着が安定化していない			
取組方針	活動の実態を確認し、求められる活動内容を取り入れ定着率を高める			
指標	目標値			
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
活動内容毎の状況の確認	調査	確認	継続	
活動内容の要望の把握	調査	確認	継続	
活動毎のマニュアルの作成	検討	実施	継続	